



本朝名公墨寶卷之下

目錄

八幡山惺之翁



雄德山松花堂惺翁

花下忘歸因

美京樽前動

醉是喜風

たふふにぞとれふ

さうさうお花

解かりさう

あまのついでに
あま

位 細沙 鴉

湖 落 曉

鳥 強 啼 鳴

さうさう

了心之妙不可言

此乃心之妙不可言

花之妙不可言

花之妙不可言

如女韶光

知新之

今宵深宿

莊神象

鳥一
時來

伴
出
暮
看
隨
飛

朝
踏
落
飛
相

鳥
一
時
來

伴
出
暮
看
隨
飛

朝
踏
落
飛
相

あく羅ちふ本此

たをた

心かろて

空にれね

静ろくあける

衣帯

背
障
物
福
達

紗
羅
宿
帳

香
匣
箱

くまのこ

ふりて

花の文

ふりて

り

費

うき

被此

あふ

杉

ふりて

孫河文意

名山曲

復是あふ

在下ふ

ちちんきん

ふちんきん

りんきん

のりんきん

よちんきん

柿必雨

新秋地

桐葉少風涼

多かき

都心ちんく

かああああ

さの子わん

あまのあまのあまの

袂すー
あま

風流昨夜

静了
あま

五路及明朝

海ふあふ

川と城

カシノ

カシノ

夫の

カシノ

カシノ

三 煙草

雪花初

白

一夜

霜

子

為 奉 尊 心

祿 々 々 々 々 々

學 々 々 々

嘉

々 々

々 々 々 々 々 々

賜 丁 字 之 新

奉 丁 目 高 見

飲 浮 新

奉 丁 々 々 々 々

雲

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

わびやうらに

ま—羅なのあそび

え—れ

か—ら

あは

か—ら
あは

若使栄部

道々

夜々—心集

不—心

晨明のうら

しきまはき

若

心のもも

うひくむね

とらふは

罪類曉興

世に志

心源をのり

心実

ふあれむれふ
むるれま
くろく
たろのつ
ろ子ふ

二
心人

ねるれ

舌之類

及子

さしをふり

かりや

多秋の月

雲をみよ

おひや

向晚簾以

生白露

終夜床底

見青

夫亦
~~~~~  
~~~~~

孩
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


ふんせいの

きりきり 奉

ゆの 費 くらね

位かりり 奉

長生殿

集書社

石老門

前日

よるよるよるよる

よるよるよるよる

よるよるよるよる

よるよるよるよる

よるよるよるよる

山市晴嵐

一竿酒旗斜陽意

數簇人家煙曉中

山路醉眠

歸去晚

太平一日

不喜風

心。來。去。心。

心。來。去。心。

心。來。去。心。

心。來。去。心。

心。來。去。心。

遠浦歸帆

鷺島界青山一抹秋

漁平浪浪橋下漁

歸棹漸入

鷺島界

長在夕陽

江之頭

呼聲 實酒

大品 孫

卦 老 西 凡

森 下 積 卷

なみの うきうき あり 此

泣く ねみ ねみ ねみ

まは くる くる くる

の 木 木

遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷之鐘聲訢晚風

此去上方

猶遠近

為言只在

此山中

く 雲 々 々 雲 々 々

雲 々 々

か ぬ の ち ゝ に ち ゝ に

今

み ち ゝ ち ゝ ち ゝ ち ゝ

平 沙 落 雁

古 字 者 之 漢

口 筆 積

幾 乃 秋 心 之 筆 行

善正深作

御返書

籍向斜陽

利奈細

あきぬあ

のこりし

あき

あき

あきぬあ

洞庭秋月

西風勁出

卷

萬頃烟波涵桂花

漁舟不知

歸客恨

直吹寒秋

卷

秋
下
草
心
心

心
心
心
心
心

力
子
子
心
心

拉
心
心
心
心

滿
湘
夜
雨

是
自
里
以
江
易
易
新
視

凍
雲
粘
雨
濕
苦
人
昏

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

紙向竹枝

江天暮雪

雪浪江天暮雪

扁舟一葉

如身

前湾停晚

西靜捲

新色山陰

高興人

あーの繁るりたふ

好ももふ。あ

漢

みよけのまは

ゆみんを新

古人學書者未有不從門入蘓公終為
非家珍實知蘓公語病如彼鍾繇受章
仲將羲之學衛夫人者有故乎名公墨
寶者何 本朝諸名公之墨刻也
本邦自古未見有勤珉刻木之帖是非
乏其人而好事者鮮矣一日或人以此
事求我予假借所知家藏極究目力臨
模鐫刻者若干人若干帖或行草或假

名惟急於成帙有不得廣蒐博采之遺
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無
神采望其面目者也若臨池者步其蹊
逕知其端倪者庶幾一助云爾

正保三年仲秋月

